

## 8.1.2 林相判読

### (1) 判読方法

林相判読にあたり、まずレーザ林相図及びオルソ写真の色調を現地調査で把握した樹種分布と照合し、判読キー（各凡例の判読指標）を作成した。この判読キーの特徴をもとに、レーザ林相図、オルソ写真から目視判読により林相区分図を作成した。林相区分図の作成イメージを図 8-5 に示す。

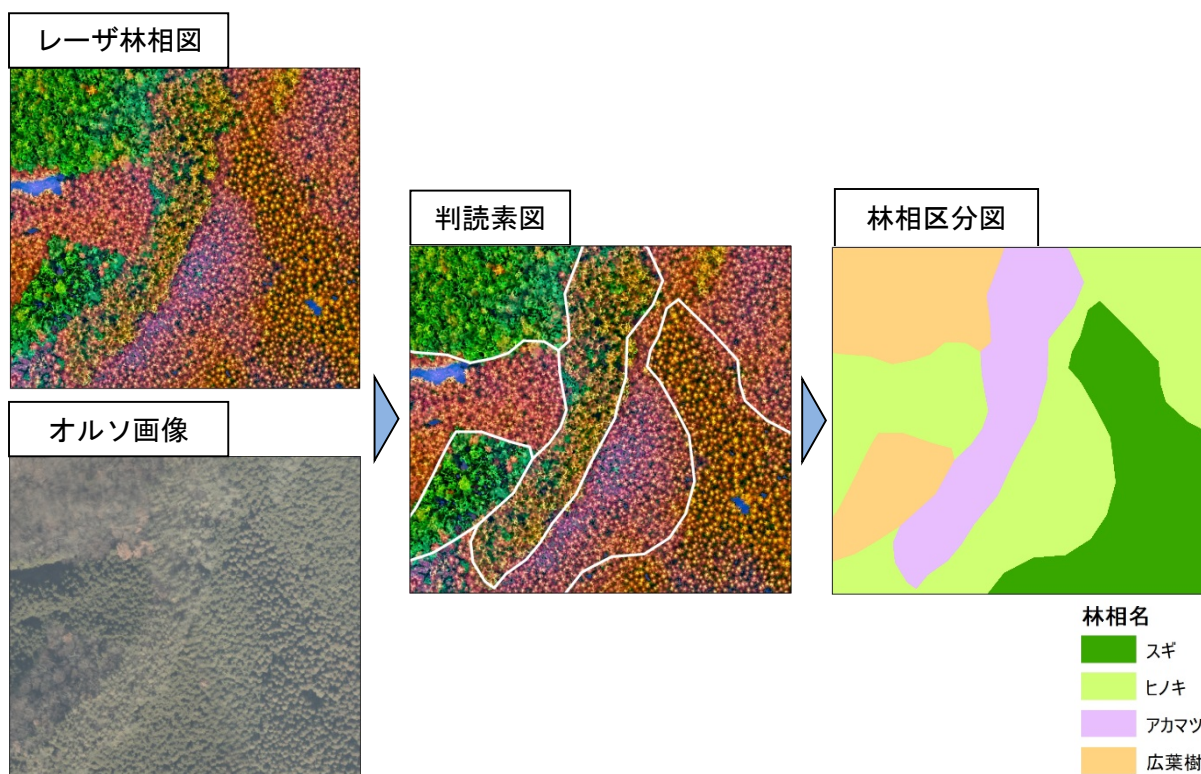


図 8-5 林相区分図の作成イメージ

林相区分は、樹木 1 本 1 本ごとに行うものではなく、まとまった林分に対し実施するものである。まとまった林分の判定要素として、最小判読単位を設定した。最小判読単位は、どこまで細かく林相を区分するかの単位であり、20m 四方（1/5000 図上で 4mm 四方）を基本とした。

例えば、カラマツ林の中に広葉樹林が混交していた場合、数本だけの広葉樹など最小判読単位よりも小さい場合はカラマツと判読し、広葉樹のまとまりが最小判読単位よりも大きく分布している場合は広葉樹と判読した。

(2) 判読キー

レーザ林相図とオルソ写真から読み取れる判読キーの特徴を表 8.2 と表 8.3 に示す。

表 8.2 レーザ林相図とオルソ写真から読み取れる判読キーの特徴 (1/2)

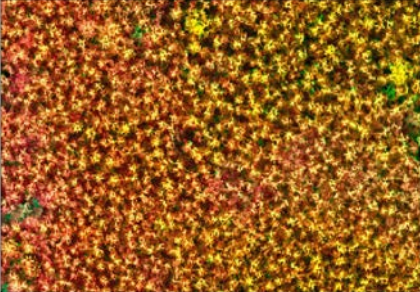

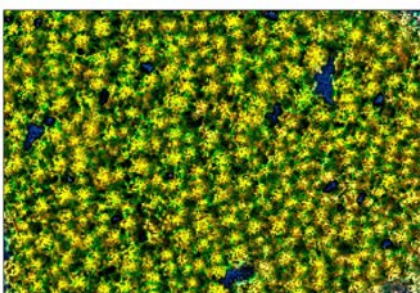

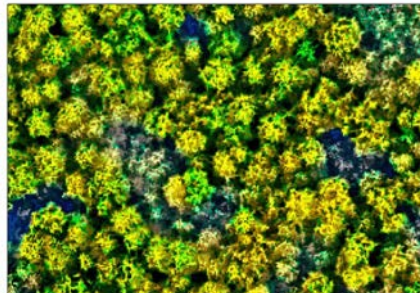

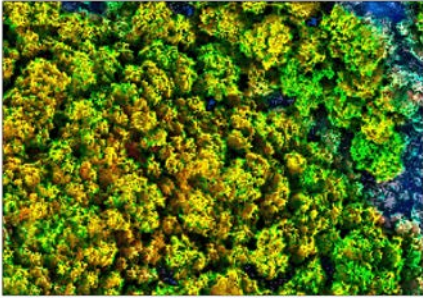



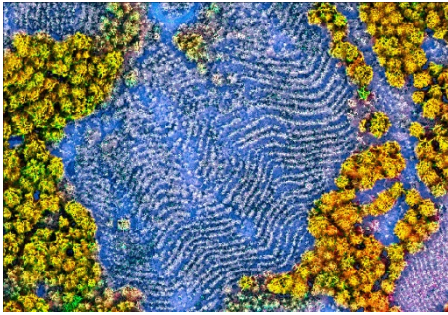

林相名	レーザ林相図	オルソ画像
ヒノキ		
	<p>ヒノキは樹冠が不明瞭であり、色は主に 橙色や桃色～黄色を呈する。</p>	<p>樹冠は円錐形であるが、きめが細かく、 薄い緑色に見える。</p>
カラマツ		
	<p>緑色～黄色を呈する。樹冠は明瞭である が、ヒノキに比べて不整形である。</p>	<p>青みがかった緑色を呈する。</p>
その他 針葉樹		
	<p>モミなどが該当し、色調はカラマツと類 似するが、樹冠が整形かつ大きいものが 多い。</p>	<p>樹冠がはっきりしており、濃い緑色を呈 する。</p>

表 8.3 レーザ林相図とオルソ写真から読み取れる判読キーの特徴 (2/2)

林相名	レーザ林相図	オルソ画像
広葉樹		
	<p>広葉樹は、明るい緑色～暗い緑色と薄い赤色や濃い橙色などさまざまである。樹冠はうろこ状に見える。</p>	<p>針葉樹と比べて樹冠が不明瞭で不整形である。</p>
その他		
新植地		
	<p>青色～薄い紫色を呈する。</p>	<p>植栽後間もないような樹高が低い針葉樹は、樹種の判断が難しい。</p>